令和７年度シラバス　　（　　国語表現　　）

教科	国語	単位数	2	学科・学年・組	工業技術科　４年Ａ組
使用教科書	国語表現　（大修館）				
副 教 材 等	論理エンジン「論理の習得」OS１　（水王舎） 国語表現基礎練習ノート　（大修館）				

1　学習の到達目標

国語を的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。それとともに、思考力を伸ばして心情を豊かにし、社会に出てからも一人の自立した社会人として生きていける力を養う。

2　科目の特色

・一般常識やビジネスマナーなど、社会に出る前に知っておかなければならないことを身に付ける。

・発表や作文などアウトプットの機会を多く設け、自分の思いや気持ちをしっかりと他者に伝えられるようになる。

3　学習の計画

	学 習 内 容	主な学習活動
一学期	○言葉と出会う ・相手に応じた言葉遣い ・文のつなぎ方 ○会議・講義・発表 ・相手や場面に応じた会話 ・建設的な議論の進め方 ○自己PRと面接 ・自分を見つめて ・効果的な自己PR	・作文を正式な形態で書けるようになるため、文法や文章整序の方法を学ぶ。 ・授業に積極的に参加し、その都度内容を理解し、話す、書く、聞く、読むなど言語活動を活発に行いながら、社会に出た後も自立した人間として生きていける人材となることを目指す。
二学期	○自己PRと面接 ・将来の自分を考えよう ・志望理由書を書こう ・グループディスカッションをしよう ○表現を楽しむ ・働く人にインタビュー ○メディアを駆使する ・電話を使いこなす ・電子メールを活用しよう	・自分の考えを明確にし、根拠となる情報をもとに論理的に説明する。 ・授業に積極的に参加し、その都度内容を理解し、話す、書く、聞く、読むなど言語活動を活発に行いながら、社会に出た後も自立した人間として生きていける人材となることを目指す。
三学期	○会議・講義・発表 ・プレゼンテーションの工夫 ○表現を楽しむ ・「わがまち自慢」のパンフレット作り ・こちら悩みごと相談室	・読み手の共感が得られるよう、簡潔な文章や写真、図の効果的な配置などを工夫する。 ・授業に積極的に参加し、その都度内容を理解し、話す、書く、聞く、読むなど言語活動を活発に行いながら、社会に出た後も自立した人間として生きていける人材となることを目指す。

4　課題、提出物等

・テキストを活用し、知識の補完をする。
・ノート・漢字のテキスト等を定期的に回収する。
・作文等の課題を課す。

5　評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
他者との多様な関わりの中で伝え合う能力を養うことを目的とし、基礎的な漢字力、語彙力を身につけると同時に、表現力を養うことを主眼とする。定期テスト、小テスト、課題、ノートなど授業での諸活動で評価する。	話す力、聞く力、書く力などの国語力を伸長することを目的とし、授業を通じた総合的な言語活動を喚起する。個人的な活動、グループ学習などの活動を評価する。	言葉を通して他者や社会に関わろうとする姿勢を持たせるために、クラスメートとの積極的な交流を促す。そのために書いたり話したりする事を習慣化し、交流することによって考えを深化させることができるように指導する。

令和７年度シラバス（政治・経済）

教科	公民	単位数	２	学科・学年・組	工業技術科　４年 Ａ 組
使用教科書	最新　政治・経済（実教出版）				
副教材等	（なし）				

１ 学習の到達目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

２ 科目の特色

・わたしたちが生活する社会のしくみについて、主体的に考えながら理解するために、授業の内容に関連する身の回りの様々な事例を引き合いに出しながら考える時間を重視する。
・自分で考察したことを効果的に表現できるような機会を重視する。

３ 学習の計画

	学 習 内 容	主な学習活動
一学期	政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、議会制民主主義、地方自治について理解を深める。	授業に出席し、かつ積極的に参加し、その都度内容を理解し、自身の知識を増やし深め、自分で様々な事象を考察する力を高め、以て近代市民としての役割を果たせる人材となることを目指す。
二学期	経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて理解を深める。	授業に出席し、かつ積極的に参加し、その都度内容を理解し、自身の知識を増やし深め、自分で様々な事象を考察する力を高め、以て近代市民としての役割を果たせる人材となることを目指す。
三学期	国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支について理解を深める。	授業に出席し、かつ積極的に参加し、その都度内容を理解し、自身の知識を増やし深め、自分で様々な事象を考察する力を高め、以て近代市民としての役割を果たせる人材となることを目指す。

４ 課題、提出物等

・定期考査時に毎回授業ノートを提出する。

５ 評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力が身についている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとしている。

シラバス　　（　数　学　Ⅱ　）

教　科	数学	単位数	2	学科・学年	工業技術科・４年A組
使用教科書	改訂版　新高校の数学Ⅱ　（数研出版）				
副 教 材 等	パラレルノート数学Ⅱ				

1　学習の到達目標

高等学校では多くの公式・定理等を学びます。それらの意義を理解し、また応用できるよう学習し、専門科の実験・実習等の数的処理の基礎を定着させます。

2　科目の特色

基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

3　学習の計画

	学 習 内 容	主な学習活動
一学期	対数関数	対数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。
二学期	図形と方程式	座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。
三学期	微分法と積分法	微分・積分の考えについて理解し，それらの有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。

4　課題、提出物等

・毎授業ごとに授業プリントを提出します。
・定期テスト毎に問題集を提出します。

5　評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式，指数関数及び三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

以上について総合的に評価します。

令和7年度　　シラバス　　**体育**

教　　科	保健体育	単位数	2	学科・学年・組	工業技術科　4　年　　A　組
使 用 教 科 書	最新高等保健体育（大修館書店）				
副　教　材　等	最新高等保健体育ノート				

1　学習の到達目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2　科目の特徴

・運動の楽しさや喜びを深く味わい自ら進んで運動できるようにするために、体を動かすことの楽しさや必要性、各種の運動の特性などについて解説する。
・自己の能力や運動の特性に応じた課題を見つけ、解決していくことができるように、各種目におけるスキルテスト表などを作成し課題解決にむけた練習方法を例示する。また、口頭質問による実態の把握に努める。
・生涯を通じて継続的な運動ができるように、身体活動の意義や、運動の特性、各種目のルール及び審判法などについて触れる。特に審判法についてはできるだけ全員が経験できるよう配慮する。

3　学習計画

月	学習内容	主な学習活動（指導内容）
4	体つくり運動	○オリエンテーション ○体ほぐしの運動 ○体力を高める運動
5	陸上競技	○走、投、跳 ・基本技能習得
6	体育理論	○各競技の歴史と特性おもなルール（・陸上競技　・水泳　・バスケットボール）
6 7 9	【選択】卓球・バドミントン	○個人技能の基本 ・ルール理解　・基本ストローク練習 ・フットワークの基本 ○シングルスゲーム ・各種ストロークを使う ・フットワークの工夫 ○ダブルスゲーム ・ルール理解　・簡易ゲーム ○スキルテスト ○球技大会
10	体育理論	○各競技の歴史と特性おもなルール（・サッカー　・バレーボール　・テニス）
10 11 12	ソフトボール	○個人技能の基本 ・送球、投球、捕球、バッティングの基本練習 ○集団技能の基本 ・ルールの理解と中継プレイ等の状況判断 ・練習ゲームにおける実践 ○ゲーム中心 ・状況に応じた攻防 ・ポジションの役割を意識した攻防 ○スキルテスト
12	体育理論	○各競技の歴史と特性おもなルール（・卓球　・バドミントン　・ソフトボール）
1 2	陸上競技 （長距離走）	○ウォーキング（3．6㎞） ○ペース走 ○時間走＜30分間＞ ○タイム測定（男子4．5㎞、女子3．6㎞）
2 3	体育理論	○各競技の歴史と特性おもなルール（・柔道　・剣道　・フットサル） まとめ

4　課題、提出物

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うと共に、運動の技能を高めている。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。 また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方ができる。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。 また、公正、協力、責任などの態度を身に付けると共に、健康・安全に留意して運動しようとしている。

令和７年度シラバス　　（　　美術Ⅰ　　）

教　　科	芸術	単位数	２	学科・学年・組	工業技術科　４年Ａ組
使用教科書	光村図書　美術１				
副 教 材 等	（なし）				

1　学習の到達目標

芸術の鑑賞や作品の制作を通して、美術文化についての理解を深め、豊かな創造力や情操心を育てる。

2　科目の特色

作品制作と鑑賞を中心として学習する。制作を通じて自分自身の内面を見つめながら、それを表現する手法を探究し、「個」の心や感性を中心に創造的な活動を行う。また、自身の表現したものについて、伝えることができるようにする。

3　学習の計画

	学 習 内 容	主な学習活動
一学期	絵画・映像メディア表現	・身近にあるものを見つめ直し、描く方法や材料を工夫する。 ・自分自身と内と外から探究し、絵や彫刻など自分に合った表現方法で作品をつくる。 ・仲間の表現や作品を知り、新たな表現を追求する姿勢を感じ取る。
二学期	デザイン	・使用する場所、目的、対象にあったデザインをする。 ・対象物について、自分の意図した見せ方をするための創意工夫ができている。 ・場所、目的、対象によるデザインの工夫を感じ取る。
三学期	彫刻・映像メディア表現	・流木の形態、素材感から発想し、表現できる。 ・自らテーマを定め、テーマを伝える創意工夫をして作品をつくる。 ・自然物および立体作品による表現の可能性を考え、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。

4　課題、提出物等

授業で指示された提出物を、期限内に提出する。

5　評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業課題および、それに対して自身が設定した主題（テーマ）に対し、効果的と考えられるコンセプトによる表現・創意工夫をすることができている。	表現したいテーマについて、課題と自身の意図に沿って発想し、表現することができている。また、表現した内容について伝えることができる。	美術を通じた表現活動や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

令和７年度シラバス　　（　課題研究　）

教　科	工　業	単位数	3	学科・学年	工業技術科　　４年
使用教科書	（なし）				
副教材等	プリント				

1　学習の到達目標

・ 今まで学んだ工業技術をベースに専門的な知識を深めます。
・ 自らテーマを設定し、自ら考え作品製作や研究を進めます。
・ 研究内容の発表を通してプレゼンテーション能力の向上を図ります。

2　科目の特色

・ ４～５名のグループを作り、いくつかのグループに別れて学びます。
・ 少人数で各グループに専門知識をもった教員を配置しています。

3　学習の計画

	学　習　内　容	主な学習活動
一学期	１．研究テーマ決め ２．テーマに基づき必要な知識を調べる。 ３．必要な材料などを準備 ４．各自研究及び作品製作	・今まで学んだ事をベースにやってみたい分野に応じたテーマを決めます。 ・決まったテーマについて書籍やインターネット等を活用し、調査します。 ・作品を製作するための設計をします。 ・設計や研究内容により必要なものを揃えます。 ・作品の製作や、研究を進めます。
二学期	５．中間報告 ６．作品など成果物の完成	・作品の製作、研究について夏休みなどの高校見学会を通じて中学生や他の生徒に発表をします。
三学期	７．研究内容のまとめ ８．発表会の開催	・研究内容を発表するために作品製作や研究行程をまとめ、プレゼンテーションの準備をします。 ・クラス内で発表をして他の生徒の評価をします。

4　課題、提出物等

パートごとに研究内容に応じた成果物を完成させる。
研究課程の記録等日誌を作成する。

5　評価の観点

知識・技術　a	思考・判断・表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。さらに環境に配慮した、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	工業技術に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	工業技術に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

令和７年度シラバス　　（工業技術実習）

教　科	工　業	単位数	7	学科・学年	工業技術科　　２～４年
使用教科書	（なし）				
副教材等	プリント				

1　学習の到達目標

・ 電気、機械に関する基礎的技術の習得を目指します。
・ 工業の実習科目で必要な基本的振る舞いについて学習します。（安全等について）

2　科目の特色

・ ６～７名のグループを作り、３～４つのテーマについて学びます。
・ 少人数で各グループに専門知識をもった教員を配置しています。

3　学習の計画

	学　習　内　容	主な学習活動
	１年を通して３～４つのテーマについて学習をします。 グループでローテーションをしながらの内容になるので、グループによって受ける時期が異なります。	
	２年 ・旋盤１ ・アーク溶接 ・テスターの製作	・旋盤加工法の基礎を学びます。 円筒形の鉄から、円筒形ベースの作品を作ります。 ・電気を用いて火花を出し、鉄を溶かします。 ガス溶接よりも分厚い鉄板を溶接します。 ・テスターの製作を通して計測機器について学びます。
	３年 ・ＩＣＴプログラミング・電気工事 ・ＩＣ実習 ・シーケンス制御 ・旋盤２	・プログラムの原理を勉強しその動作法を学びます。 ・電気工事においての単線図を複線図に直す方法を学び、 実際に電気工作を行います。 ・ＩＣを利用して電気制御の基礎を学びます。 ・２年次に引き続き筒状の鉄をベースにした様々な 加工方法を学びます。
	４年 ・フライス盤 ・製図 ・ＣＡＤ	・主に四角の鉄を用いた加工法を学びます。 ・製図器具を用いた製図の作図を学びます。 ・ＣＡＤの基礎を学びます。

4　課題、提出物等

パートごとに課題作品を完成まで製作します。また、毎時間の授業内容を報告書に記載し、提出をします。

5　評価の観点

知識・技術　a	思考・判断・表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。さらに環境に配慮した、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	工業技術に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	工業技術に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

令和７年度シラバス　　機　械　工　作

教　科	工業	単位数	２	学科・学年	工業技術科　４年Ａ組
使用教科書	機械工作１・２（実教出版）				
副教材等	（なし）				

1　学習の到達目標

1　機械工作と機械材料に関する基礎的な知識と技術を理解します。
2　加工技術を自然法則と関連付けて考察し，科学的，工学的思考力を養います。

2　科目の特色

・各種の工業材料の性質について理解を深めるとともに、材料の加工性や種々の加工法など機械工作の基礎的な知識や技術について学ぶ。
・将来の生産技術を見通しつつ、実習との兼ね合いを理解しながら実践的な工作技術の習得をめざす。

3　学習の計画

	学 習 内 容	主な学習活動（指導内容）
1学期	第２章　機械材料 １　金属の機械的性質 ２　金属の結晶と加工性 ３　鉄鋼材料 ４　非鉄金属材料 ５　非金属材料 第１章　工業計測と機器 １　計測の機器　２　測定器 ３　長さの測定　４　三次元測定 ５　表面形状の測定　６質量 ７　温度の測定	・材料の機械的性質を知り、その測定方法を理解する。 ・金属の結晶組織、合金の結晶組織、平衡状態図について理解する。 ・銑鉄の製造、精鋼の過程を理解し、炭素鋼の平衡状態図について、組織写真を見て理解する。 ・非鉄金属材料、非金属材料の用途を理解し、その利用方法を理解する。 ・基本的な測定用語や各測定機器の測定方法を理解する。
2学期	第８章　特殊加工と三次元造形技術　１特殊加工　２　熱的加工 ３　化学的加工　４　力学的加工 ５　三次元造形技術 第９章　表面処理 １　めっき　２　化成処理 ３　皮膜処理　４　鋼の表面処理 第１０章　生産計画、管理と生産の効率化 １　生産計画　２　管理システム	・各特殊加工の概要と種類、加工エネルギーの相違などを理解する。 ・三次元造形技術の種類と特徴、造形原理や従来の加工法との相違を理解する。 ・各表面処理方法の種類と特徴、その方法について理解する ・資材、設備、原価の管理目的を理解し、それを推進する方法を理解する。 ・ものづくりの形態とその進め方を理解する。
3学期	第１０章　生産計画、管理と生産の効率化 ３　品質管理　４　安全と環境 ５　生産の効率化 これからの工作法	・品質管理の目的を理解する。 ・安全と環境管理の目的を理解する。 ・取り付け具やジグの活用を理解する。 ・これからの工作法について、事例を交え理解する。

4　課題、提出物等

・各学習内容における課題などを提出する。
・授業ノートを提出する。

5　評価の観点

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
機械工作に関する基礎的な知識や技術を身に付け、環境に配慮しながら、様々な加工法や加工装置、工具等を適切に取り扱う技術が身に付けている。	機械工作に関する基礎的な知識や技術をもとに、様々な課題に対して適切に考えて判断し、創意工夫する能力が身に付けている。	機械材料に関する様々な工作方法や諸問題に興味関心を持ち、知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組む態度が身に付けている。

シラバス　　（　機械設計　）

教　科	工業	単位数	2	学科・学年	工業技術科　４年Ａ組
使用教科書	機械設計１・２（実教出版）				
副 教 材 等	プリント				

1　学習の到達目標

1. 「機械」の概念を理解し，設計するための力学・材料力学・機構学の基礎を理解する。
2. 機械の構成と基本的な機械要素・装置についての基礎的な知識・技術を身に付ける。

2　科目の特色

「機械」の概念と設計するための力学・材料力学・機構学の基礎を理解し、機械設計に関する課題の発見と解決する力を，実践的・体験的な学習活動を通して身に付ける。

3　学習の計画

	学 習 内 容	主な学習活動
一学期	機械設計を学ぶにあたって	・機械設計の学習のねらいと学習の進め方。
	機械に働く力と仕事	・物体に働く力と運動、仕事と動力、効率について学習する。
二学期	材料の強さ	・部材内部の力や変形、部材破壊の原因を学習する。
	ねじ	・ねじの種類と用途、ねじに働く力を学習する。
	リンク・カム	・機械の運動と種類について学習する。
三学期	歯車	・歯車の種類・平歯車について学習する。
	ベルト・チェーン	・ベルト・チェーン伝動について学習する。

4　課題、提出物等

・毎授業ごとに授業プリント課題を提出します。

5　評価の観点

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
機械設計の各分野について，基礎的な知識と技術を身に付け，社会環境に適した機械設計の意義や役割を理解している。	機械設計の課題を発見し，倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて，合理的・創造的に課題について考え，的確に表現する力を身に付ける。	機械設計に関心をもち，改善・向上を目指して，自ら学び，工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

以上について総合的に評価します。